

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	若き心 : 歌
Author(s)	今吉, 輝翠
Citation	龍南, 178 : 139 - 141
Issue date	1921-07-10
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7805
Right	

若き心

今吉輝翠

おまねは、バラの花だつた
日當りのいゝ庭に
おまねは佇んでゐた

おまねは女の弱い理性だ
戀には盲目的につき進む
けれど秋がくれば目を開けて冷然と見返す

おれは、自然の最後の反榮を
慰むる唯一の慰安者
秋の風だつた

おれは靜かに柔かく吹いた
柔かさを失つた靜かさを吹いた
こんどはきつく吹いてやつた

そうした日のくりかへしに
うるさうに眼瞼を紅く染めながら
涼しい眼をバツチリあけた

おれはその視線にあつた時
その美に陶然と酔つた時
どうすることもできなかった

おまねはおれ一人に
感謝と、戀をさへげた
おれは玄宗の様に得意になつた

やがて知つたその戀も感謝も
おれ一人ではなかつた
月も陽も露も……

けれどおれは呪ひはしない
敵を挫かうと
ナイトの様に戦つた

結果は戀を一心に集めた

顔の美に酔ひすごしたおれは
それでも満足しなかつた

顔は散つた。その美しさは褪せた
けれどおれには何でもないのだ
心の美がより尊いから

冬が來た
おれは心をとらわるべく努力した
ためしもせずにくつとその心をのんだ

あゝ恐しい！悪魔だ
顔は紅にはにかんでゐた
一個の處女の様だつたが

その心は秘密を抱いてゐた
露顯から逃れる爲に、秋のしまひを知らず爲に
とげはおれの心をぐざとさした

あゝ傷みし心よ、若き心よ、春を待て！